



I. 色々な顔

1 無表情な顔	4
2 怖い顔・怒った顔	14
3 笑った顔	18

II. 盾の模様

1 句 具	21
2 盾の文様	22

III. 盾持ち人埴輪と古墳

	27
--	----

IV. 論考集

付論1「上野地蔵における盾持ち人埴輪の様相」	44
付論2「古墳の守り人―盾持ち人―」	56
―埴輪人物の文化伝達―を考へ、埴輪盾持ち人埴輪を想う―	



I. 色々な顔

盾持ち人埴輪は、古墳の一番外側に設置されることが多く、体の前で轉える盾と顔を外側に向けて置かれています。その顔を細かく見ると、大きく見開いた目・高い鼻や、ゆがんだ口、はたまた、小石で歯を表現したものまであります。このような異様さを強調する顔には、古墳に葬られた人が眠る神聖な場所に、邪霊が入り込むのを防ぎ、古墳を守る役割を託されていたものと考えられています。

盾持ち人埴輪の出現は、桜井市茅原大墓古墳（帆立貝式古墳・古墳時代中期初葉）から出土した盾持ち人埴輪（4世紀末）が国内最古といわれています。

南関では、5世紀後半から盾持ち人埴輪が出現します。



I. 色々な顔

1. 無表情な顔

顔の表現がなく、喜怒哀楽がわからない表情をしています。顔には赤・黒や白色に塗られることがあります。赤い色は、「ペンガラ=酸化鉄=鉄さび」の粉末を溶いたもので、儀式の際の化粧を表現しています。

また、あごひげをつけた盾持ち人埴輪もあります。

